

1-12

演題	在宅での看取りケアの質の向上
副題	～多職種デスカンファによる効果の検討～

在宅看取り
多職種連携

法人名	社会福祉法人 若竹大寿会
施設名	わかたけ訪問看護ステーション

発表者名 (職種)	村松 あい子 看護師等
共同発表者	大谷 茂
共同発表者	
共同発表者	
共同発表者	

都道府県	神奈川県
住所	横浜市神奈川区平川町 2 丁目 4 番地 2 F
TEL	045-548-9296
FAX	045-488-5330
メールアドレス	wakahoukan012@gmail.com
URL	

今回の発表施設 またはサービスの 概要	わかたけ訪問看護ステーションは 2021 年 12 月 1 日に開設。横浜市神奈川区を拠点としています。在籍は、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が所属しています。高齢者、精神、小児、終末期と幅広く対応しているステーションです。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

看護現場では、逝去された患者様にそれぞれの看護師が抱く想いや支援方法について検討するデスカンファレンス（以下、デスカンファ）を実施している。看護現場でのデスカンファの目的は、悲しみや後悔を共有し次の出会いに向かうための心の整理やバーンアウトなど精神的負担のケアであるとされている。在宅でも例外ではなく、看護師や関わった多職種がそれぞれの想いを抱いていると想定される。当研究は、看護師だけでなく、ケアマネジャーやヘルパーにも参加していただくことで、デスカンファの効果が得られるのかを研究した。

取り組んだ課題

ご利用者が逝去されたあと、担当看護師を中心にデスカンファを実施した。その際に担当ケアマネジャーやヘルパーを招待し、現地もしくは Zoom で参加していただいた。デスカンファ実施後に参加者に対してアンケート協力していただいた。その結果から看護職以外の多職種にデスカンファが有効か評価した。

具体的な取り組み

デスカンファ自体に不馴れ、初めての参加といったスタッフや多職種のため冒頭 5 分程度で簡単にデスカンファの目的・ルールをスライドを用いて説明した。アンケートでは、普段の関わりの中で「もやもや」することがあったか・その場合にはどのように気持ちの整理をしていたかなどデスカンファ実施前後で評価できるように質問した。アンケート内でインタビュー可と答えてくださった方に詳しく感想や効果について伺った。

活動の成果と評価

先行研究でのデスカンファ実施後の反応と期待できる効果は、看護師と同様に多職種でも得られる。在宅では、より生活に身近なヘルパーや想いを汲み取るケアマネジャーがご利用者様やご家族様から注ぎ込まれた感情を受け止める場面がある。日常的に想いを受け止めることで、傷つくのは当然

である。自宅で生活するご利用者様を支えるチームとして想いを表出する場が必要である。

しかし、病院内での医師と看護師の立場の差ができるように、在宅でも同じ立場で行うべきである看護師が上になるような構図ができやすい。看護師の立場が上になる状況では意見が言いにくく、もやもやの解消を阻害する要因になる。デスカンファを主催する側が発言しやすい環境作りに努める必要がある。デスカンファでは後悔などマイナスの振り返り意見が出やすいため、次の関わりにつながる前向きな成果として繋げることができるよう、プラスのフィードバックが出るような現場作りが必要である。このような機会が多職同士がお互いを励まし合い、理解し合うことで今後相談しやすい関係性作りに繋がる。

今後の課題

今後継続してカンファレンスを開催し、より効果的で前向きな会になるよう改善を続けていく。今回の回答をもとに、アンケートを一部見直し、内容を充実させる。アンケート結果からデスカンファレンス参加に対して“忙しい”といった意見があったため、忙しい中でも継続できる方法を模索する。“なにを話したらいいかわからない”といった参加者の気持ちの評価を行う。

参考資料など

公立学校共済組合東北中央病院 山形大学医学部看護学科
デスカンファレンス導入による看取りに関する意識の変化
松江市立病院医学雑誌第 16 巻第 1 号：25 - 30, 2012
デスカンファレンスに対する緩和ケア病棟看護師の認識
明日の看護に生かすデスカンファレンス
第 1 回 デスカンファレンスとは何か—意義と実際